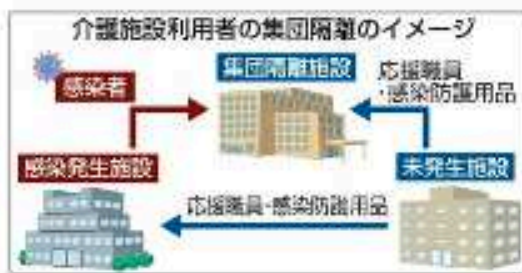


# 介護施設 枠を超え連携

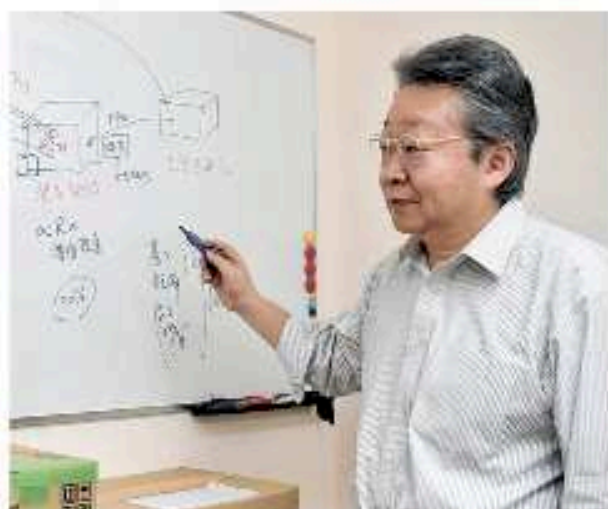
## 「崩壊」防止へ仙台の医師提言

認知症の高齢者が多く入居する老人介護施設で新型コロナウイルスのクラスター（感染者集団）が発生したら…。想定される職員不足による介護崩壊を防ぐため、感染した高齢者向けの建物の確保、医療・介護法人の枠を超えた応援態勢の構築を急ぐよう、仙台市の医師が提言している。（報道部・宮崎伸一）

提言したのは、「宮城の認知症をどう考えるか」世話人の山崎英樹医師（59）。仙台市泉区松森の「いずみの杜診療所」で認知症の高齢者を長年診療してきた経験を生かして、より実践的な内容を打ち出した。



## 集団隔離施設 確保を



介護崩壊の防止策を提言した山崎医師  
＝仙台市泉区松森、いずみの杜診療所

士や医師、看護師が医療・介護法人の枠を超えて応援に入る態勢づくりを訴える。

菅 が避けられない介護現場では、多くの職員が濃厚接触者として出勤できない事態が予想される。

山崎医師は、行政と連携して感染者を施設とは別の建物に集団で隔離し、介護

クラスターが発生した場合、国の指針は施設内を感染エリアと非感染エリアに分け、感染者は個室に隔離するよう推奨する。ただ、

認知症の高齢者を個室に長時間隔離することは難しい。施設による閉じ込めや身体拘束による虐待も懸念

される。

山崎医師は対策の柱として、軽症者向けの療養施設に高齢者専用エリアを確保するが、集団隔離できる建物を用意するよう提案。個室にとどまらなくてもよく、ストレス軽減につながるほか、介護職員が配置する必要がありと判断した。対応の実現には行政との連携が不可欠なため、山崎

人員不足対策の核に想定医師らは11日、宮城県と仙台市に協力を要請した。県長寿社会政策課は「介護関係の協議会などを通して、応援態勢を築けるよう構築している」と説明する。

山崎医師は「この介護施設でもクラスターが発生する可能性がある。最悪の事態を想定した準備が必要だ」と強調した。

## 行政主導 介護士を派遣

### 注目集める「富山モデル」

新型コロナウイルスのクラスター発生に伴う職員不足が原因で、介護現場の稼働できない介護職員が統出機に直面するケースが全国で相次いだ。富山市の老人保健施設で起きた大規模クラスターでは、行政主導で介護士らを派遣して窮地を脱し、「富山モデル」として注目を集めている。

富山市の老人保健施設「富山リハビリテーションホーム」で4、5月、集団感染が発生。入所者と職員計59人が感染し、入所者9人が亡くなった。

初めて感染者が確認され、感染を抱いた市と富山県は、

富山県は「医療機関や介護協議会との人的なつながりに助けられた。第2波に備え、体制強化を図っている」と話す。